

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和7年9月

こんにちは。最近の栃木県は、朝晩めっきり涼しくなりました。季節の変わり目、風邪をひいたり、体調を崩す方が多いようです。しっかり食べて動いて寝て、元気に秋を迎えましょう！Newsletter 第85回配信です。

【診療科紹介 病理診断部・病理診断科】

みなさん、こんにちは！今回は、附属病院で患者さんの診断に関わる病理診断部門について紹介します。

当病理診断部門には、10名の認定病理専門医（内、3名は非常勤）、3名の専攻医、3名の大学院生（病理学講座の大学院生を除く）が在籍し、診療、研究、教育に従事しています。年間病理検体数は、組織診 15,000件強、細胞診 14,000件強、術中迅速診断 800件強、病理解剖 15件前後と、国内の大学病院の中でもトップクラスです。自治医科大学内の他部門と同様、スタッフの出身大学は様々（宮崎、東京、信州、自治、富山医薬、東京医科歯科、日医、山形、日本歯科、琉球、新潟、熊本、高知、東女医、北里、金沢など）で学閥はありません。

病理専門研修（病理診断コース）は、3年間のトレーニングで、特殊なものを除き独自に病理診断を遂行できる力を養うことを目標としています。また、「病理アカデミック・レジデントコース（大学院博士課程）」という、臨床医にも病理を学ぶ機会を提供するための制度もあります。

さらに、病理診断部内に全国500名以上の病理医が所属する一般社団法人PathPort どこでも病理ラボ(代表 福嶋敬宜教授) (<https://pathport.or.jp>) を設立して運営しており、日常的に他施設の病理医との情報交換やコンサルテーションをオンライン上で行える体制を構築しています。

私たちの目指すところは、病理診断部門の充実はもちろんですが、病理診断が適切に患者さんに還元されることであり、そのためには、病理診断に素養のある臨床医が増えてくれることも望んでいます。臨床と病理が真に意義のあるキャッチボールができる、そんな病理診断部門を目指しています。興味のある人はwebサイトもご覧の上、一度見学に来て下さい。



The infographic features the PathPort logo and text: "自治医科大学病理診断部を拠点にした全国的な病理医ネットワークにもセミナーなど学べる機会が沢山". It includes four photos with captions: 1. "先輩達と一緒に標本を観察しながら診断にたどり着く思考過程も学ぶ" (Learning the thought process of reaching a diagnosis while observing specimens with seniors); 2. "検体エコーと標本の比較で画像診断にフィードバック" (Feedback on image diagnosis by comparing specimen echos and specimens); 3. "病理検体の切り出しを通して、病変を把握し組織像を想像する" (Understanding lesions and imagining tissue images through specimen dissection); 4. A photo of a histological slide.

【医師国家試験予想問題】

1) 手術中に行う迅速病理診断で正しいのはどれか。2つ選べ。

- (a) 予定手術全例に対して行われる。
- (b) 目的として切除範囲やリンパ節郭清範囲の決定などがある。
- (c) 小さな検体は生理食塩水に浸して提出する。
- (d) 凍結してから切片を作製する。
- (e) 免疫染色を行う。

答え (b) (d)

国試問題「117F31」を一部改変した問題です。このほかにも「113B15」「108B16」「107F10」など病理検体の取扱いについての出題があります。

迅速病理診断は手術中に採取した組織から迅速に標本を作製して検体提出から15-30分程度で病理診断結果を報告します。検体を専用のコンパウンドに埋めて急速冷凍し凍結したブロックを薄切後HE染色して標本作製します。迅速病理診断用の検体は未固定で作成するためホルマリン固定液につけてはいけません。また、小さな検体はラップフィルムや生理食塩水で湿らせたガーゼなどで包んで乾燥しないようにして提出する必要があります。かといって生理食塩水に浸してはいけません。水分が多いと凍結する際に微細な氷の結晶ができて組織が破壊されてしまうためです。

2) 手術により摘出された病理検体の処理について不適切なものはどれか。一つ選べ。

- (a) 手術により切除された組織は、摘出後30分以上室温で保持することは極力回避する。
- (b) 手術により切除された組織は、摘出後は冷蔵庫など4℃下で保管すれば固定は6時間後で問題ない。
- (c) 固定液には10%中性緩衝ホルマリン溶液を用いることが望ましい。
- (d) ホルマリン固定時の処理温度は室温が良い。
- (e) ホルマリン固定に使用する固定液の容量は、組織量に対し10倍量の固定液を用いることが望ましい。

答え (b) ×

「手術により切除された組織は、摘出後は速やかに冷蔵庫など 4℃下で保管し、1 時間以内、遅くとも 3 時間以内に固定を行うことが望ましい」とされています。

近年、悪性腫瘍に対して種々の分子標的薬が開発されそれに伴ってゲノム診断の必要性が高まっています。ゲノム診断で特に利用されるのは、病理診断後に保管されているホルマリン固定パラフィン包埋 (formalin-fixed paraffin-embedded; FFPE) 検体です。ただ、病理検体の取り扱い方によって品質が悪化するため、適切な処理方法について理解しておく必要があります。病理医や病理検査技師のみならず、病理検体を取り扱う臨床医も知っていなければなりません。国試でも近いうちに出題される可能性が高いと思います。日本病理学会のホームページに「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」が公開されていますので一度ご確認ください。また、同ホームページの「病理コア画像」も有用ですのでご活用ください。